

1. 王権内部の勢力関係と埴輪

・王権中枢部の埴輪生産

4世紀前半までは奈良盆地東南部に一極集中

4世紀後半からは奈良盆地北部・西南部でも、やや遅れて大阪平野でも生産開始

⇒巨大古墳群の盛衰と対応、埴輪の内容は勢力間で大きな相違はない

⇒埴輪からは権力抗争や勢力交替のような図式は描けない むしろ古墳群間の関係は親密

・埴輪の構成や内容の変化

4世紀前半まで 円筒埴輪中心。形象埴輪は家・鶏が加わる程度

4世紀後半から 器財埴輪（盾・蓋・鞆・甲冑・船など）が加わる 造出・島・堤の整備

5世紀前半から 人物埴輪が出現（かつては5世紀後半から出現するとみられてきた）

焼成が窖窯焼成に変化 王陵クラスの巨大古墳では、円筒埴輪が大型化

⇒朝鮮半島由来の新技術の導入 墳丘の巨大化に対応して格差付けが強化

・5世紀前半の埴輪生産体制

巨大・大型前方後円墳を頂点とする「階層構成型古墳群」の造営

⇒前方後円墳のもとに、帆立貝形古墳、方墳、円墳、方形周溝墓群を配置

埴輪の集約的生産、埴輪の供給関係は古墳群の造営の一体性を裏付ける

2. 金蔵山古墳の埴輪

・4世紀後半の「畿内」の埴輪を忠実に受容 背景に工人移動と体系的な工人編成

規格、突帯割付技法（凹線・断続凹線・刺突・刺突+ナデ）のバラエティの意味

・墳丘規模160mはこの時期の地域首長墳としては破格（東では岐阜県昼飯大塚古墳）

・円筒埴輪の段数は3条4段であるが、墳頂部に置かれた器財埴輪は大型で優品

・柵形埴輪が多数出土 使用状況が判明する稀有な事例

・野焼き焼成で古い型式の埴輪と窖窯焼成？で新しい型式の埴輪が混在

墳丘テラス、中央石室は古、南石室・前方部墳頂・島状遺構・造出は新

⇒4世紀後半の古墳造営開始時から5世紀初めまで埴輪の樹立行為（葬送儀礼）は継続か

⇒その都度、新たな埴輪製作の情報がもたらされる

3. 造山古墳群の埴輪

・墳丘長350mの造山古墳を頂点とする典型的な中期の「階層構成型古墳群」

東の丘陵部（小造山古墳、小山ヶ谷古墳の周辺）

- 西の丘陵部（前内池古墳群、甫崎天神山古墳群）も範囲に含むか—埴輪の流通状況から
- ・5世紀初めに造山古墳の築造開始、途中で甕窯焼成を導入（前方部に甕窯焼成のもの多い）
- 4号墳、千足古墳、榊山古墳にもほぼ同時に埴輪を供給—一元的で集約的な埴輪生産（千足古墳では、2号石室構築（埋葬）時に甕窯焼成の埴輪を樹立か？）
- 2号墳では完全に甕窯焼成 円筒埴輪列に盾（盾持人埴輪）を交える一列の内側は世界

4. 「畿内」からみた岡山の埴輪

- ・「畿内」の埴輪の内容や生産体制をほぼそのまま導入
- ⇒造山古墳群は、埴輪の生産体制も含めて、「畿内」の王陵周辺の状態そのもの
- ・埴輪の特徴から長期にわたる古墳の造営（葬送儀礼）の継続が読み取れる
- ⇒「畿内」の古墳もそうであるのかもしれないが、現状、岡山ほど明瞭ではない
- ・盟主的古墳の造営地の変化—金蔵山古墳から造山古墳へ—
- 金蔵山古墳最終樹立時の埴輪と造山古墳古墳群の埴輪の類似
- 造山古墳の一部と金蔵山古墳の胎土が一致するとの指摘も
- ⇒権力抗争や政治的変動の結果ではなく、造営地の移動
- 有力者層の古墳を一局集中させ、序列（地位）の差を視覚化（認識しやすく）する
- 造山古墳群の内実は多様（阿蘇溶結凝灰岩の石棺、肥後型石室、中国東北部系装身具）
- 中期の「階層構成型古墳群」が何を示すものなのかを考える上でも重要なフィールド
- ・吉備三大古墳の嚆矢としての金蔵山古墳、王権中枢部の縮図としての造山古墳群

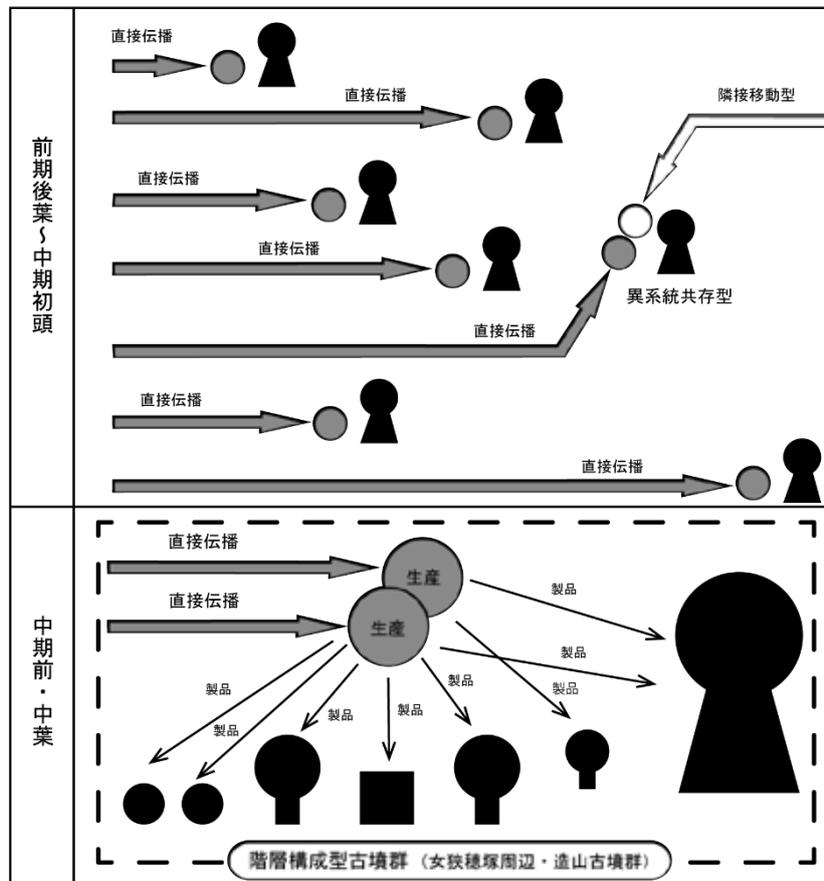


図1 西日本における埴輪の伝播・生産モデル

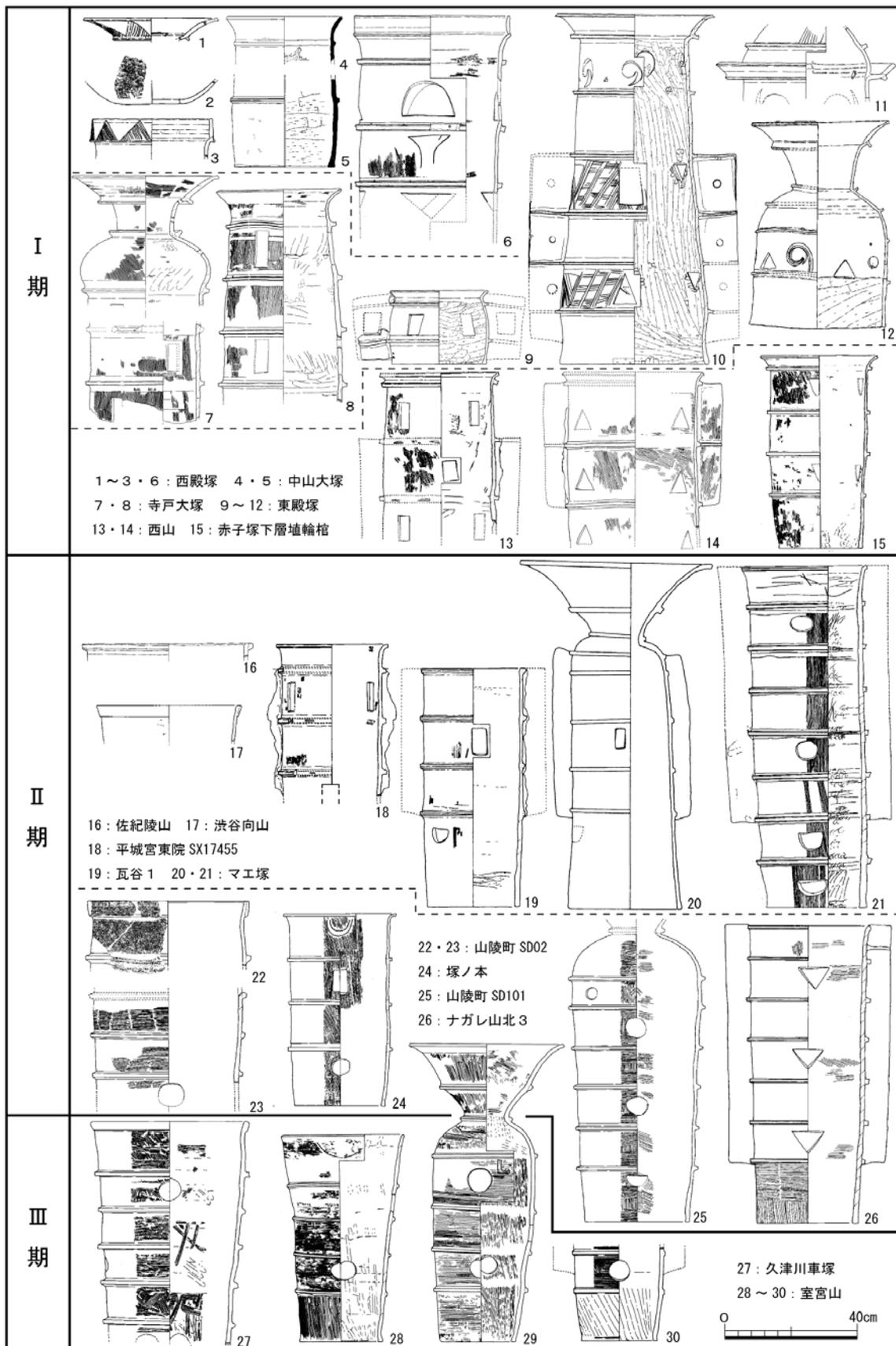


図2 「畿内」の円筒埴輪編年（前半）

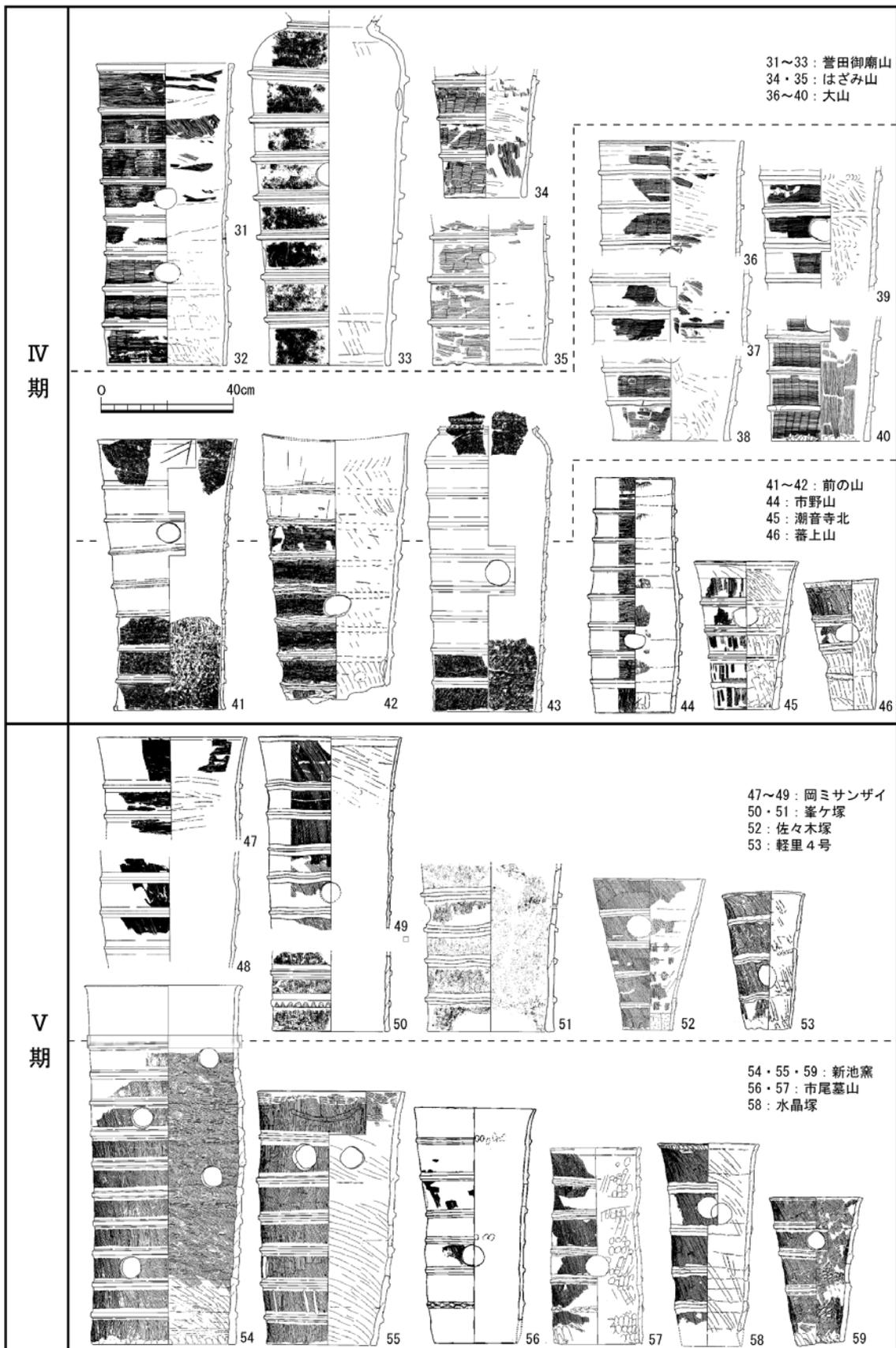
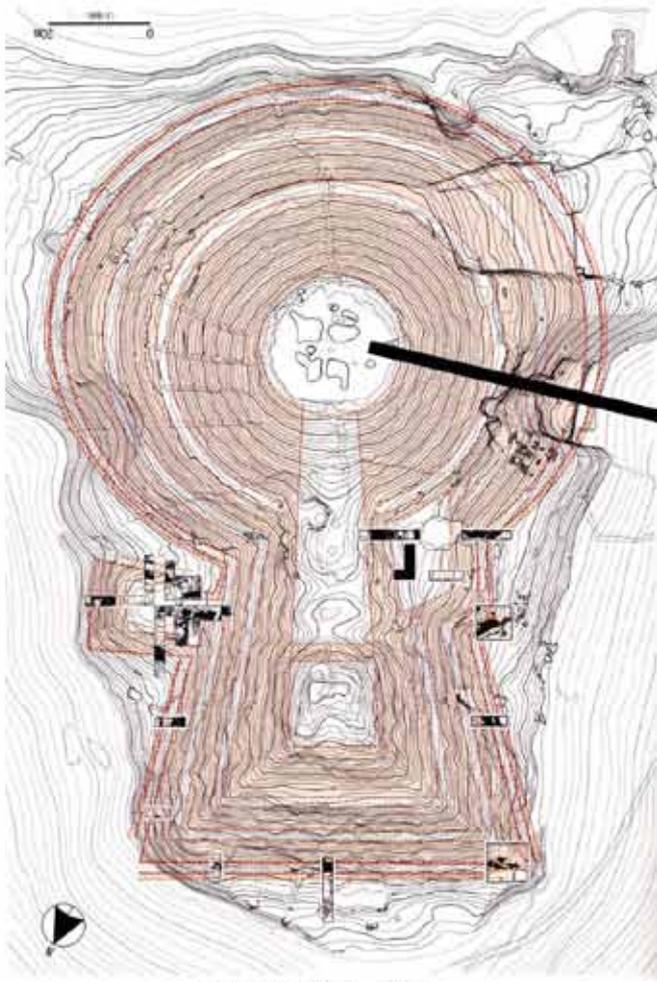
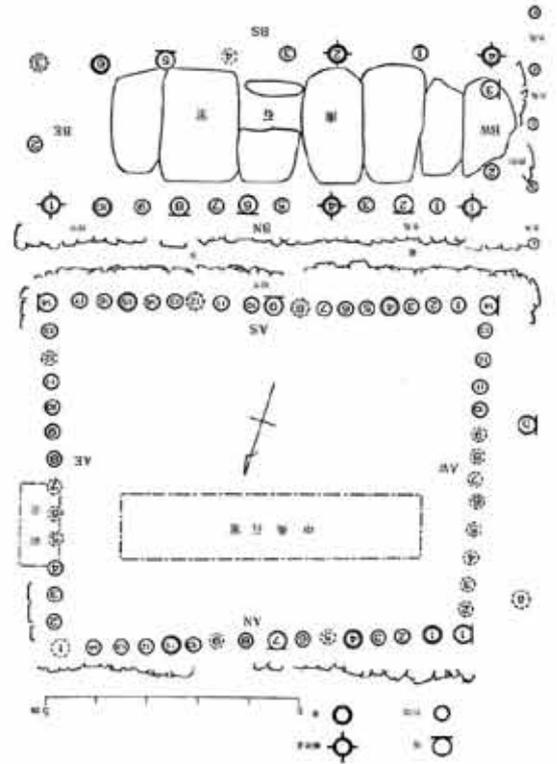


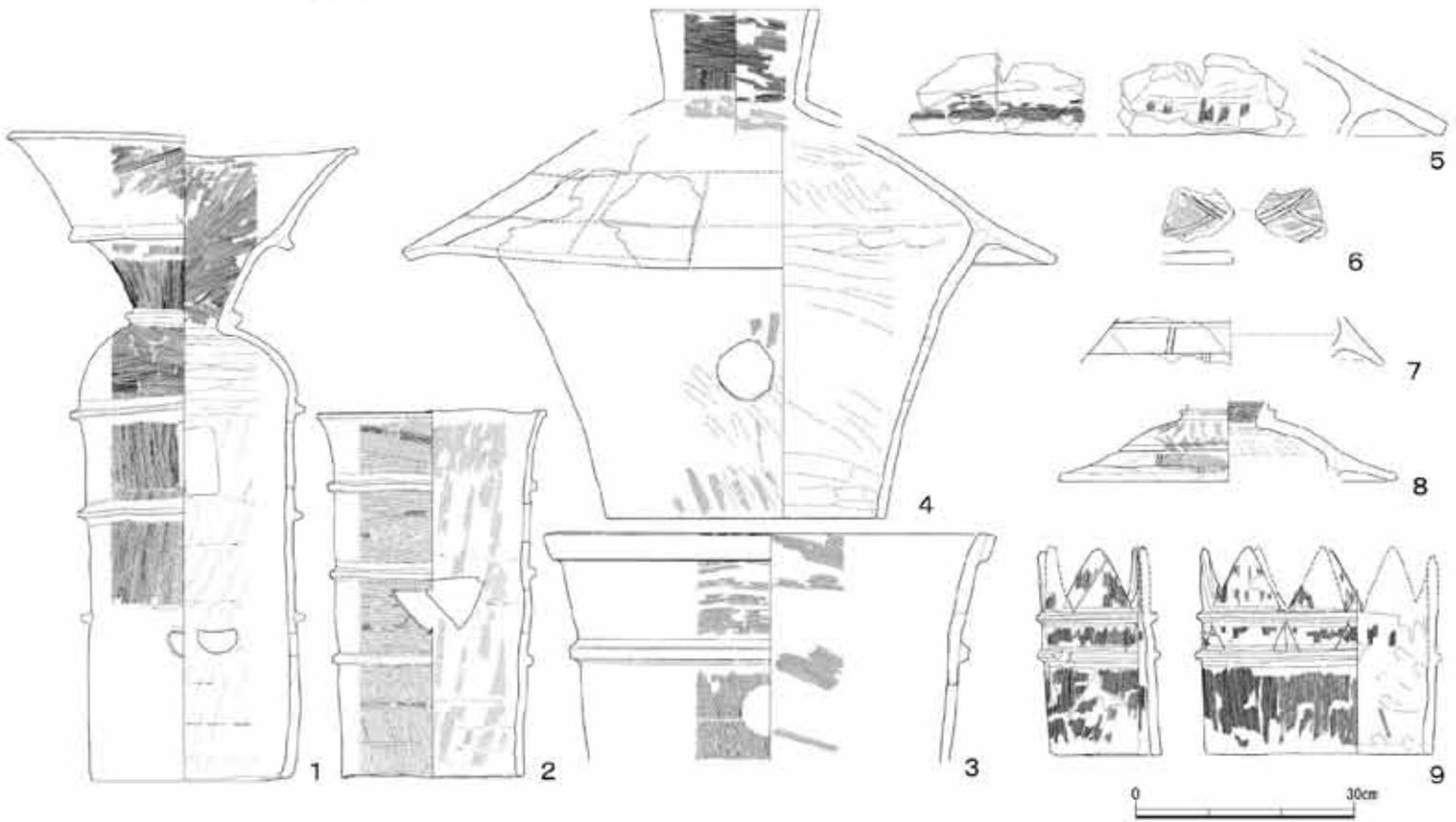
図3 「畿内」の円筒埴輪編年（後半）



墳丘復元図 1 : 1500

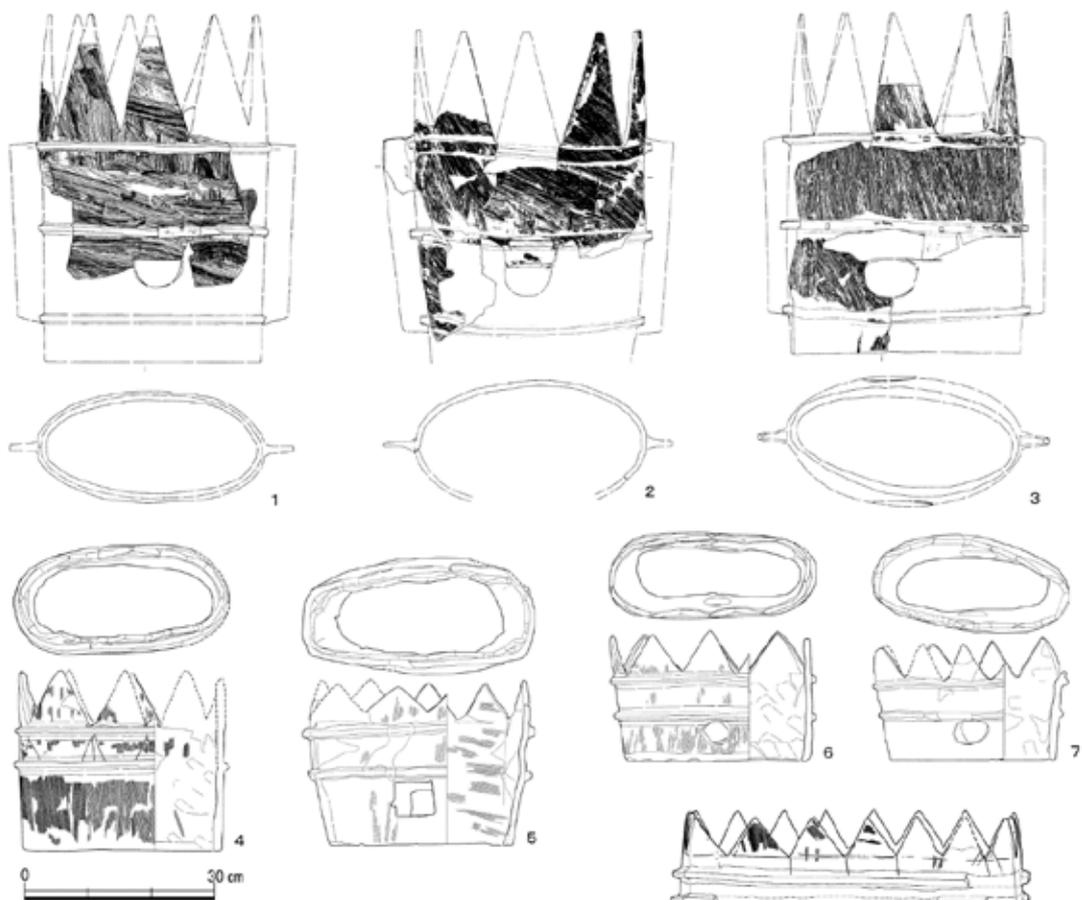


後円部墳頂方形埴輪列 1 : 150



1・2 : 円筒埴輪・小(古) 3 : 円筒埴輪・大(古) 4・5 : 蓋形埴輪・大(古) 6~8 : 蓋形埴輪・小(新) 9 : 柵形埴輪

図4 金蔵山古墳の埴輪の種類と新旧



1～3：天理市榑山古墳柵形埴輪 4～7：岡山市金蔵山古墳柵形埴輪
 8・9：岡山市金蔵山古墳圓形埴輪 10：八尾市中心合寺山古墳圓（浄水施設）形埴輪

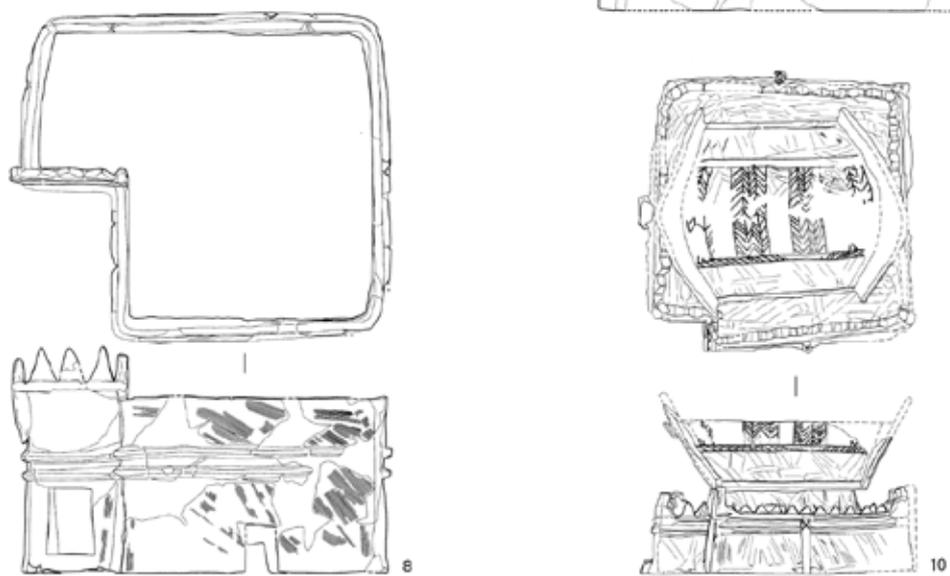
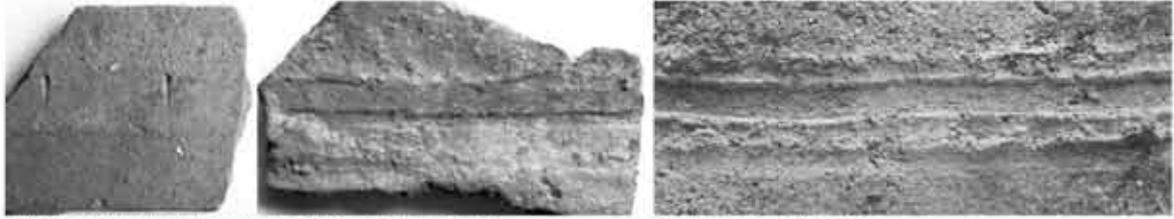


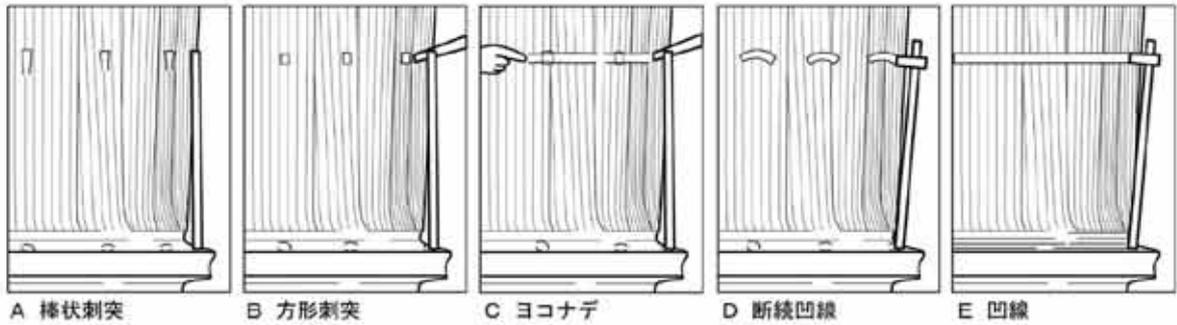
図5 柵形埴輪と圓形埴輪の類例



1 方形刺突(メスリ山古墳) 2 ヨコナデ(マエ塚古墳) 3 断続凹線(西山古墳)



4 棒状刺突(東殿塚古墳) 5 凹線(メスリ山古墳) 6 凹線(五色塚古墳)



A 棒状刺突 B 方形刺突 C ヨコナデ D 断続凹線 E 凹線

図6 「畿内」の各種突帯割付技法



断続凹線



写真58 突帯割り付け技法(凹線)



写真59 突帯割り付け技法(長方形)



刺突+ヨコナデ



写真60 突帯割り付け技法(方形)
岡山市教育委員会 2019『金蔵山古墳』より

図7 金蔵山古墳の各種突帯割付技法

表1 西日本出土の埴輪組成と突帯割付技法（前期後葉～中期初頭）

No.	古墳名	所在地	墳形	規模	組成	段数	突帯割付技法
1	上臈塚	兵庫県伊丹市	前方後円	70	円筒・鱒・家・靱	5?	刺突・断続凹線
2	五色塚	兵庫県神戸市	前方後円	194	円筒・鱒・家・盾・蓋・靱	5・6	刺突・ヨコナデ・凹線
3	金蔵山	岡山県岡山市	前方後円	160	円筒・鱒・柵・家・鶏 盾・蓋・靱・甲冑・冑	4・5	凹線・断続凹線・刺突 刺突+ヨコナデ
4	大代	徳島県鳴門市	前方後円	54	円筒・家・盾		
5	岩崎山4号	香川県さぬき市	前方後円	62	円筒・楯円・家		
6	中間西井坪	香川県坂出市	埴輪生産遺跡	—	円筒・家・盾・蓋・靱	4?	刺突
7	宮の本24号	広島県三次市	円	30	円筒・家	3・4?	凹線
8	甲立	広島県安芸高田市	前方後円	78	円筒・家・蓋・甲冑・船		刺突・凹線
9	柳井茶白山	山口県柳井市	前方後円	90	円筒・家・蓋	5	断続凹線
10	白鳥	山口県平生町	前方後円	120	円筒		
11	亀塚	大分県大分市	前方後円	116	円筒・壺・家・盾・船		凹線
12	立野	大分県豊後大野市	前方後円	63	円筒・壺		凹線
13	沖出	福岡県嘉麻市	前方後円	68	円筒・家	4?	刺突・凹線
14	鋤崎	福岡県福岡市	前方後円	62	円筒・鱒・家・靱	5・4	凹線
15	丸隈山	福岡県福岡市	前方後円	85	円筒・盾・水鳥		刺突・凹線
16	井田原開	福岡県糸島志	前方後円	93	円筒・鱒・盾・蓋		
17	スクモ塚	島根県益田市	前方後円	96	円筒		
18	大元1号	島根県益田市	前方後円	85	円筒		
19	上野1号	島根県松江市	円	40	円筒・鱒	4	凹線
20	室山1号墳	島根県松江市	前方後円	70+	円筒・鱒		
21	廻田1号	島根県松江市	前方後円	58	円筒・鱒		棒状刺突
22	大垣大塚	島根県松江市	円	54	円筒	4	凹線
23	五反田1	島根県安来市	円	25	円筒		断続凹線
24	里仁32・33	鳥取県鳥取市	埴輪棺	—	鱒・壺・家	4?	凹線
25	六部山	鳥取県鳥取市	埴輪棺	—	「因幡型」	5	刺突
26	古海40	鳥取県鳥取市	埴輪棺	—	円筒	5	刺突
27	網野銚子山	京都府京丹後市	前方後円	198	丹後型	6	刺突・ヨコナデ
28	大將軍	京都府京丹後市	土坑	—	丹後型・蓋		刺突・ヨコナデ
29	神明山	京都府京丹後市	前方後円	200	丹後型・円筒・家・盾		刺突
30	蛭子山1号	京都府与謝野町	前方後円	145	丹後型・家・短甲	4・5	刺突
31	作山1号	京都府与謝野町	円	36	丹後型	4	刺突
32	作山2号	京都府与謝野町	円	28	丹後型・円筒	4・5	刺突



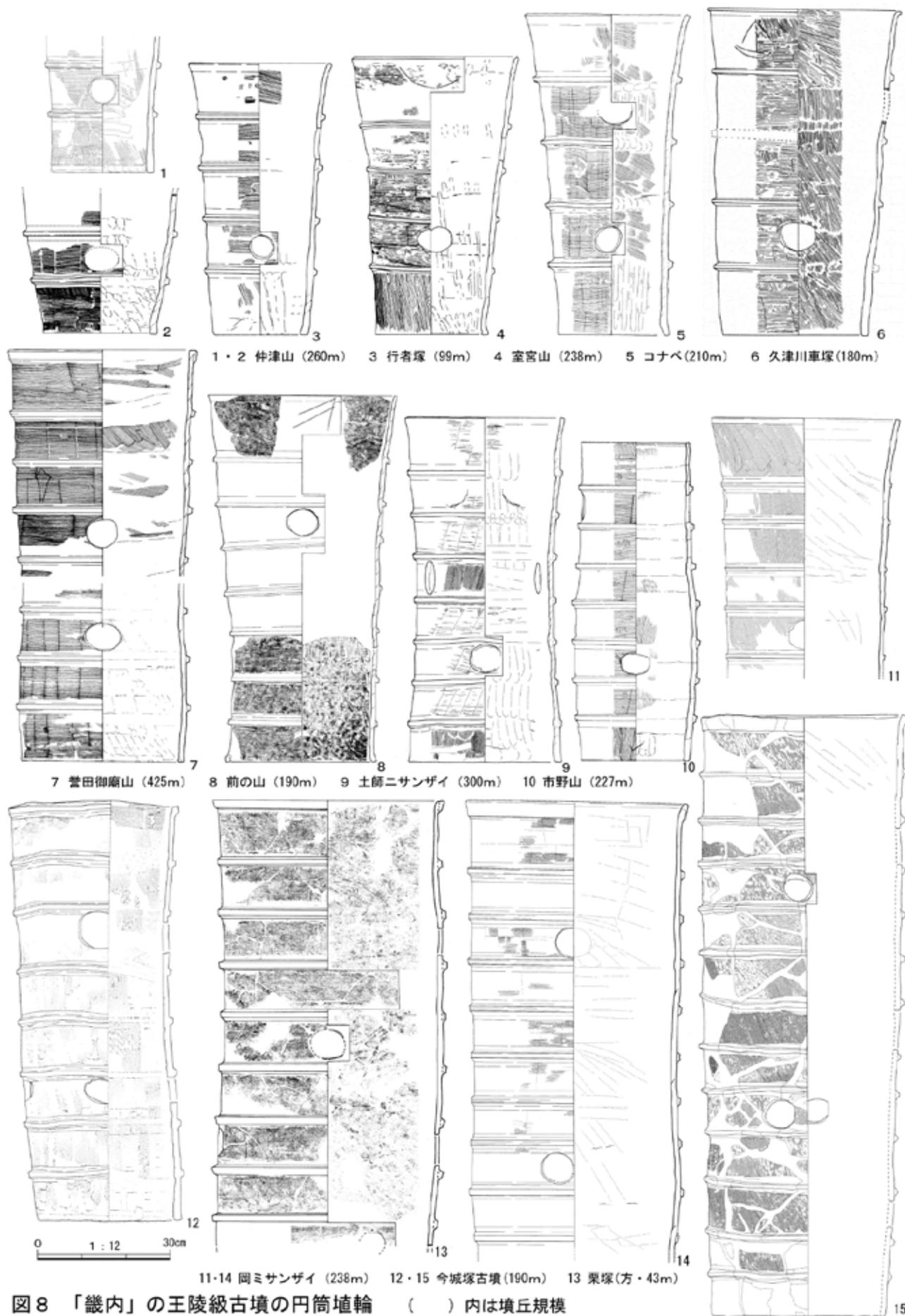
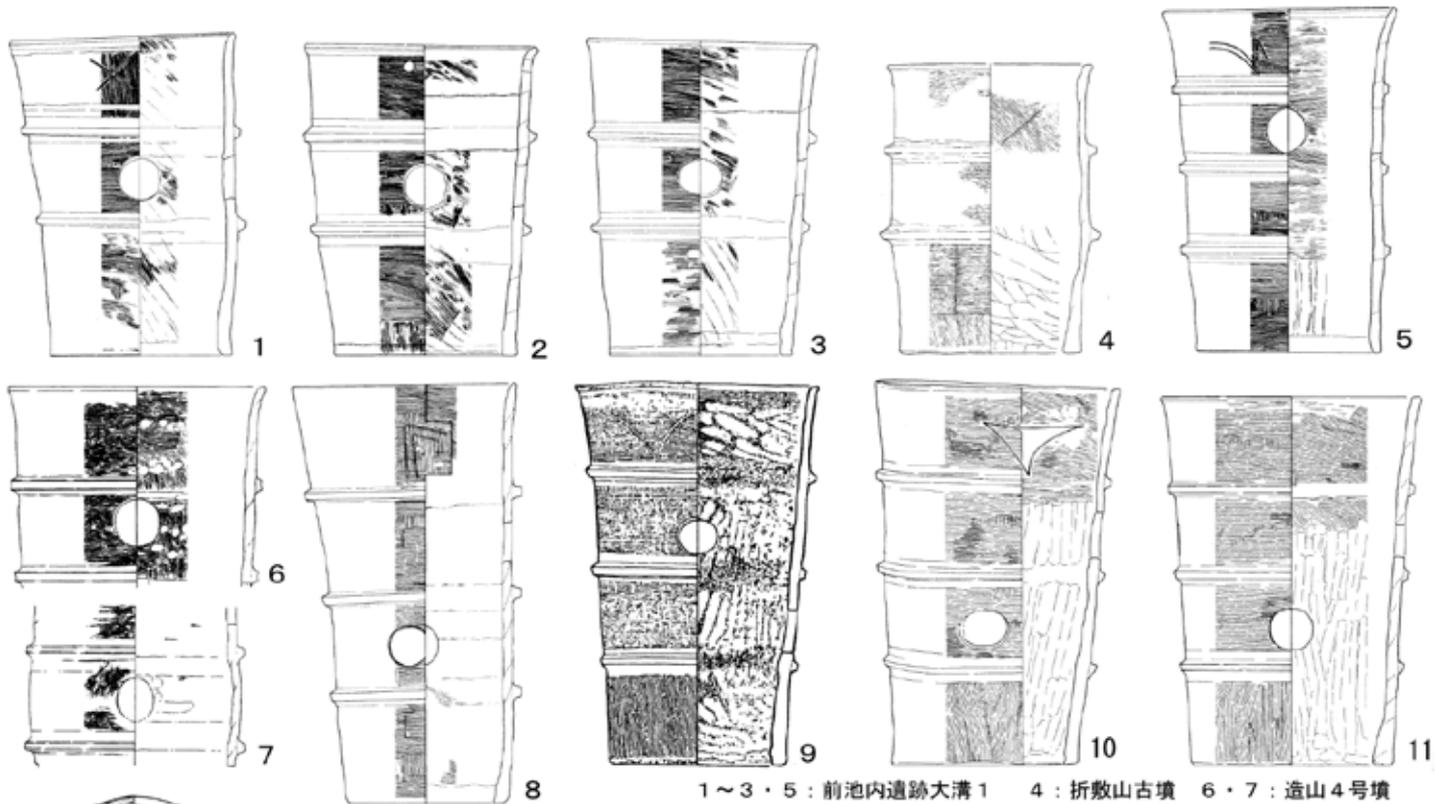
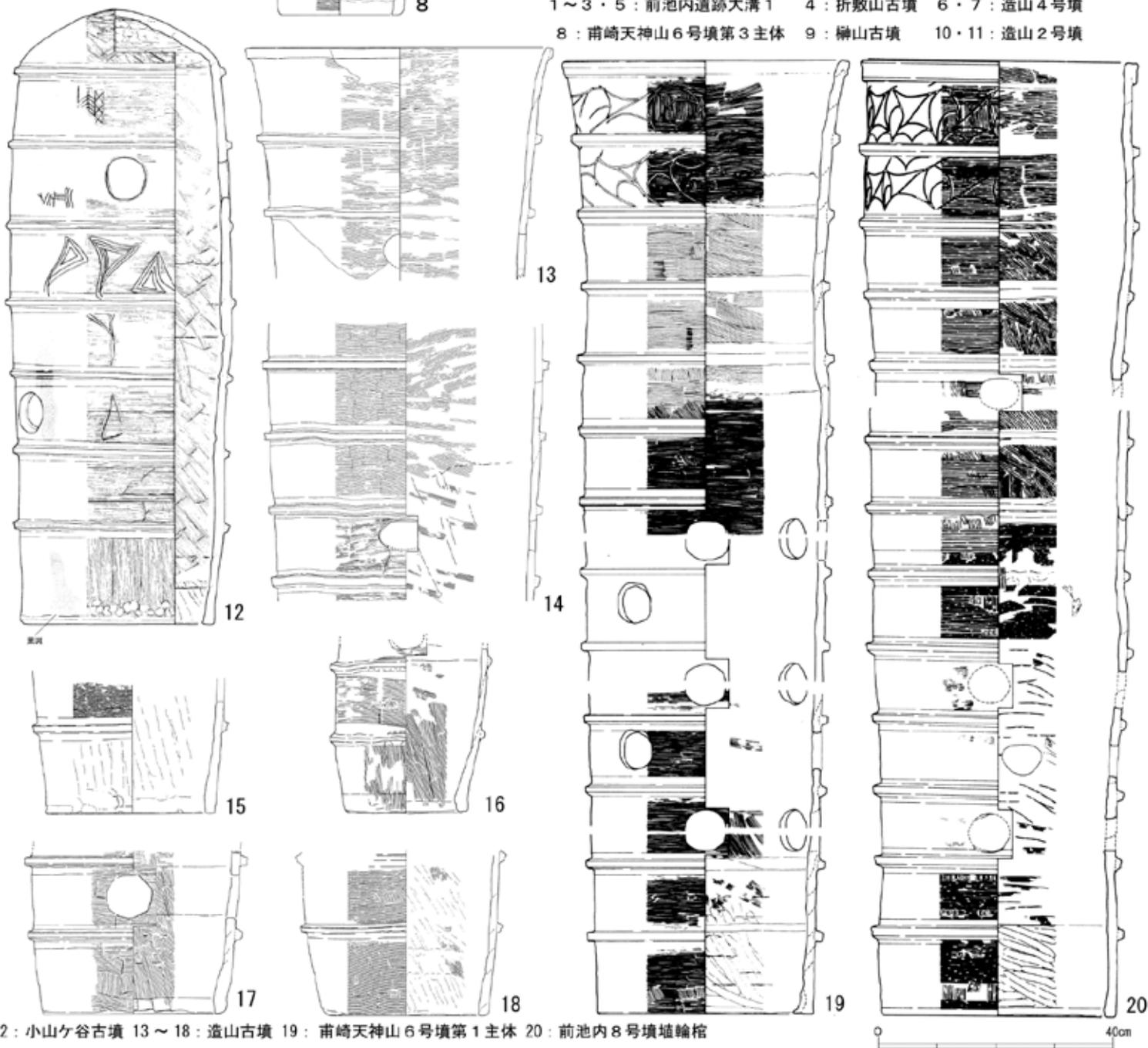


図8 「畿内」の王陵級古墳の円筒埴輪 ()内は墳丘規模

5世紀初め(上段)までは、百舌鳥・古市古墳群の王陵と他地域の古墳で、埴輪の段数に大きな差はない。
5世紀中頃以降(中・下段)、百舌鳥・古市古墳群の王陵の埴輪は8段構成が標準となり、格差が拡大する。



1~3・5：前池内遺跡大溝 1 4：折敷山古墳 6・7：造山4号墳
8：甬崎天神山6号墳第3主体 9：榊山古墳 10・11：造山2号墳



12：小山ヶ谷古墳 13~18：造山古墳 19：甬崎天神山6号墳第1主体 20：前池内8号墳埴輪棺

図9 造山古墳とその周辺の円筒埴輪

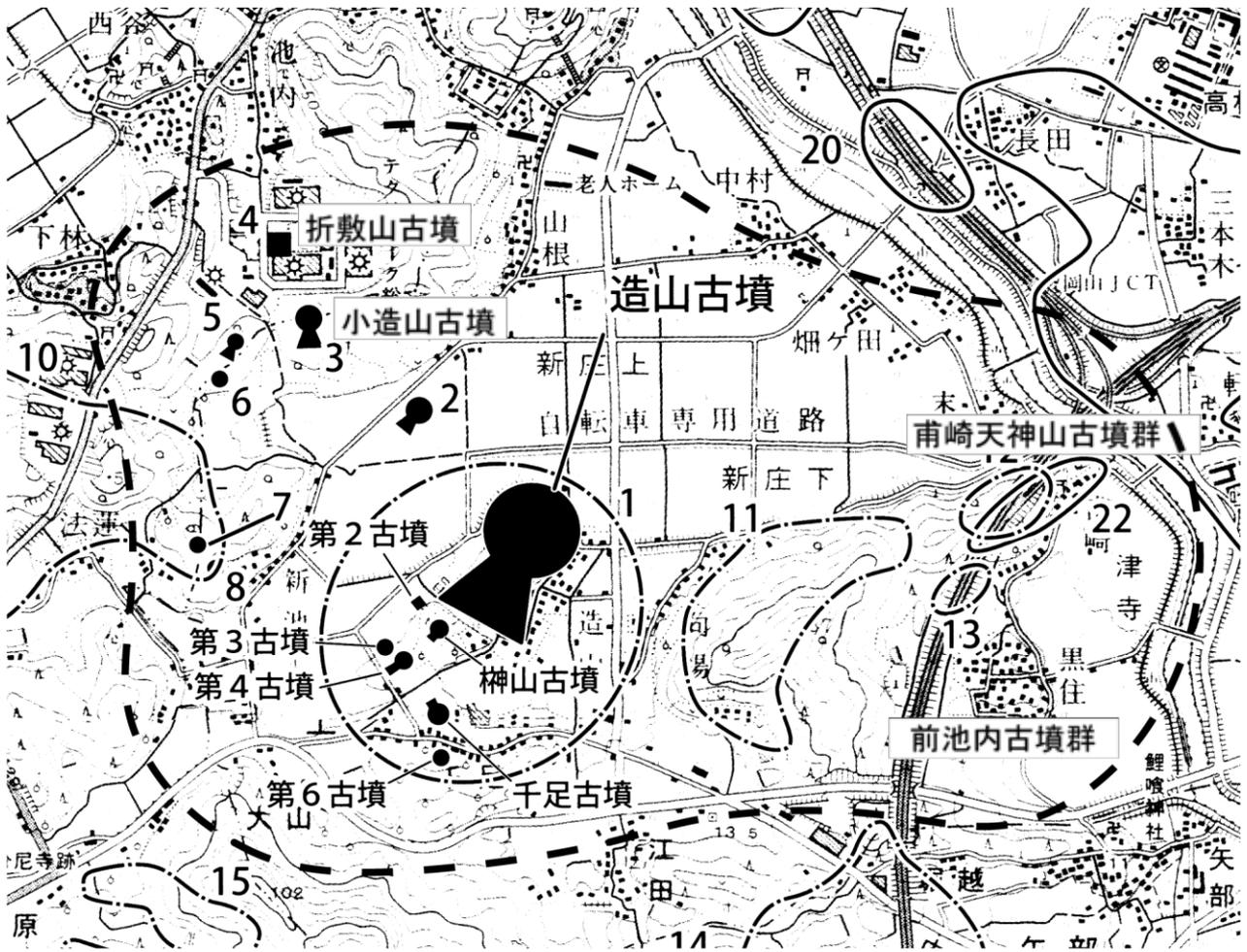


図 10 埴輪の供給からみた造山古墳群のひろがり

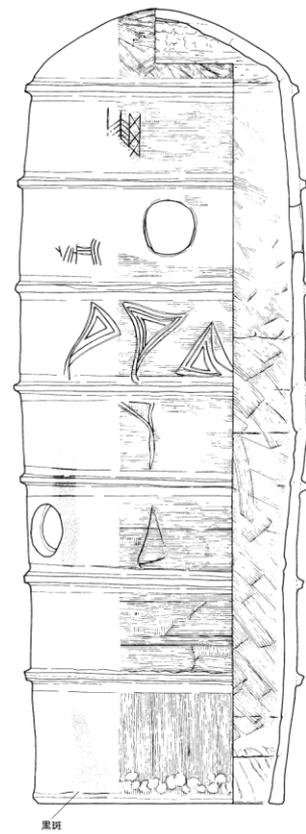
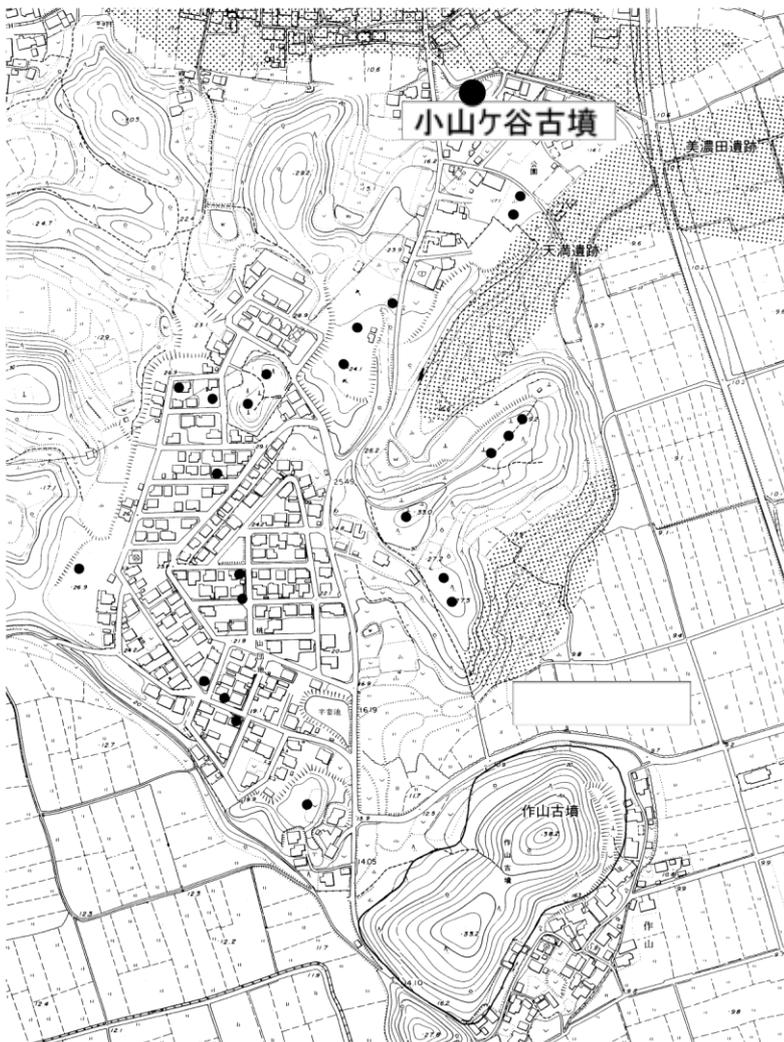


図 11 造山古墳の関連埴輪が出土した
小山ヶ谷古墳の位置

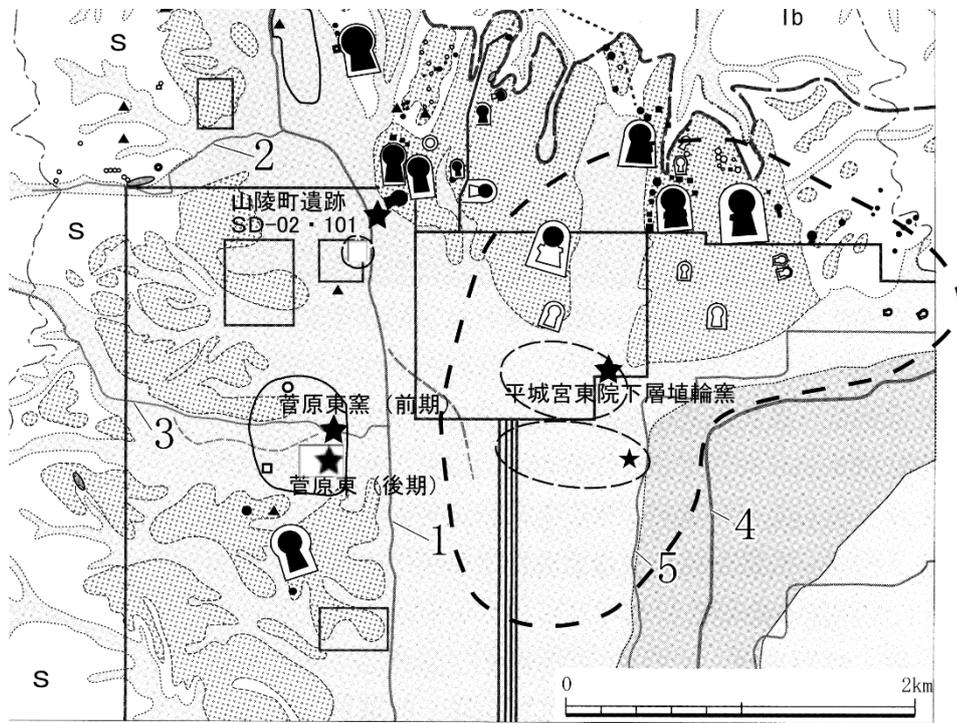


図12 平城宮東院下層埴輪窯（佐紀古墳群）の埴輪の供給範囲

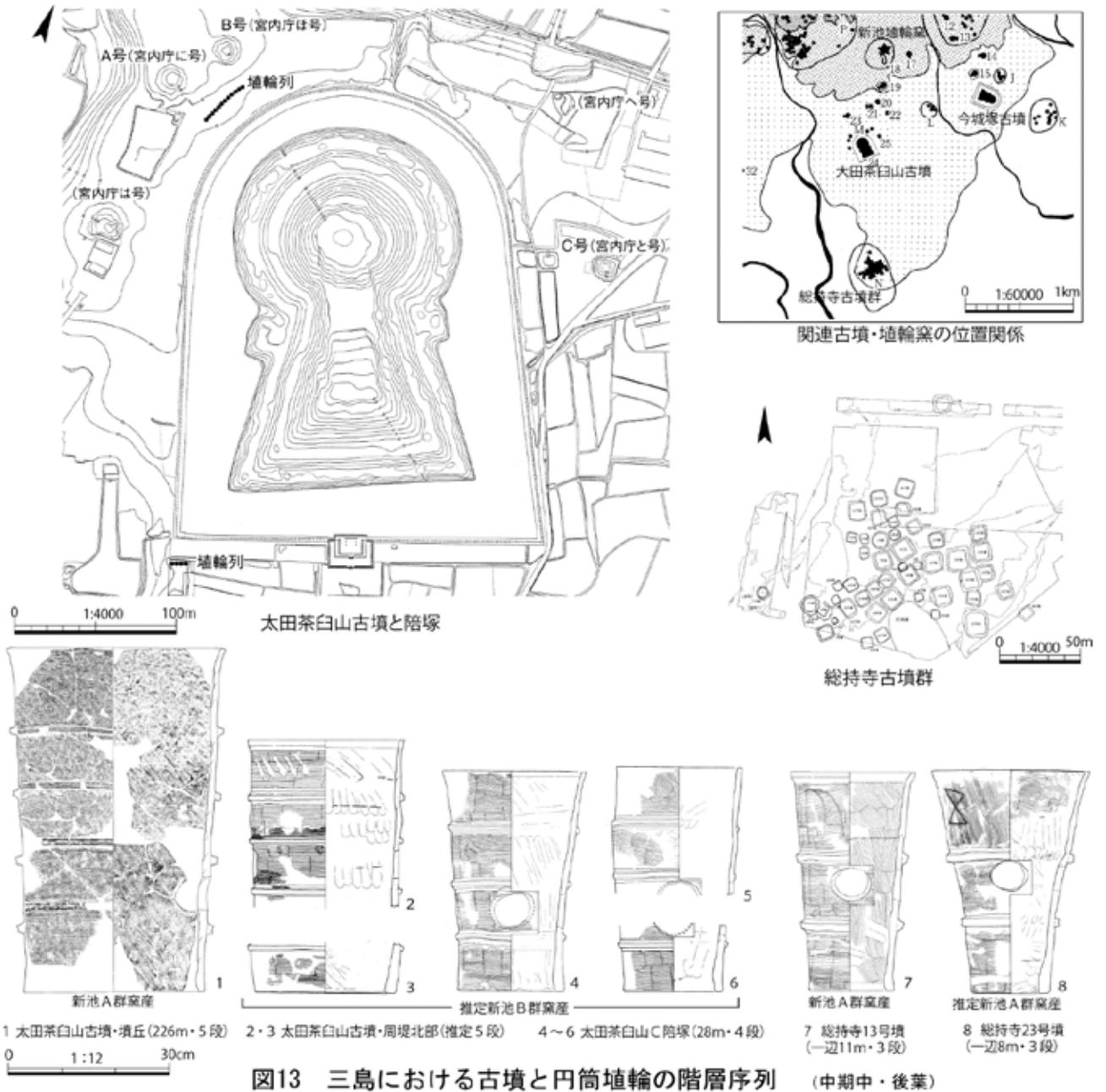


図13 三島における古墳と円筒埴輪の階層序列 (中期中・後葉)